

日本共産党議員団

3月議会、新年度予算と手数料・使用料を2023年(令和5年)4月から引き上げる条例改定、黒川里山センター設置及び黒川小学校の廃校(特別決議案)など47議案について審議しました。

また、SDGsの推進、脱炭素社会を目指す施策の推進を求める請願及び、議会のライブ配信を要望する請願を全会一致で採択しました。

共産党議員団は、国保や後期高齢者医療、介護などコロナ禍で苦しむ市民の負担を増やすことは許さず厳しく指摘し、市民の困っている声を聴き政治を変えるために全力で取り組んでいます。



ひとりひとりが大切にされるまちづくりを

医療的ケア児

看護師配置

議員団が求め続けてきた、保育・幼児教育施設で医療的ケアが必要なこどもの受け入れが可能となるよう看護師配置が実現しました。

市立認定こども園に看護師を配置するとともに民間保育施設への補助が4月より実施されます。

誰もが安心して子育てできる市政に一步前進、さらなる拡充を求めています。

教育への

応援・支援拡充

留守家庭児童育成クラブの待機児童解消にむけ川西北小学校区に民間クラブが新設、待機児童の多いクラブに夏休み入所が拡大されます。

教職員の業務負担を軽減し、子どもたちと向きあう時間を確保するためスクールサポートスタッフが引き続き配置されます。

議員団は、少人数学級の早期実現など、子どもたちが安心して学び成長できる環境の実現に力を尽くします。

大学等への

入学金給付

全国から「返済不要の奨学金」を求める声が拡がる中、経済的理由から大学などへの進学を断念することがないよう、国の入学金給付制度に加え住民税非課税区分に準ずる世帯への進学支援金が拡充しました。

議員団は、給付型奨学金制度のさらなる拡充や、高すぎる大学入学金や受験料などを廃止し、子どもたちが希望する学校に進めるように引き続きがんばります。

住民の声を届け続けて

安心して住み続けることができるまちづくりを

共産党議員団は、まちづくりの要はどの地域においても、「医療・公衆衛生」「教育・保育子育て施設」「食料品や日用品等買物ができる施設」「これらを結んでくれる公共交通」、この4つの確保が必須で、さらに継続や拡充が必要だと求め続けています。

特に、川西市は住宅団地として発展してきたため、南北に細長い地理的条件を考慮した世代交代・持続可能なまちづくりの取り組みが必要です。

地域公共交通実現にむけて

「山坂が多く駅やバス停までが大変」の声。

既存の電車やバス、タクシーなどの運行を守り、住みやすい地域にするため、それぞれの地域の実情に応じた「地域公共交通の確保」が必要です。コロナ禍、原油高騰等の影響を受け、国や市の財源確保が重要です。

今住んでいる家に安心して住み続けることができるよう、市民と交通事業者、学識経験者や市が、知恵と力を出しあって地域交通網を実現させましょう。

医療や子育て環境の確保を

北部の医療確保!

今秋には、総合医療センターが開院になりますが、舎羅林山開発や住宅開発などがはじまる市北部は現病院がなくなることによって、2次救急の空白地が拡大、受診科が減るなど医療環境が後退、交通渋滞などの影響が心配されます。市は、パンデミックや大規模自然災害に備えてベッド削減をやめ、各地域の医療環境を確保すべきです。

議員団は、それぞれの地域で顔が見える子育てをしっかりと応援できるように、公立園を存続し拡充すること、民間園への支援や通学(園)費・給食費の補助などを求めています。

幼稚園保育所統廃合やめて!

住民が主人公のまちづくり

住民の願い実現を!

議員団は、それぞれの地域で議会報告を行うと共に、市民意見や要望を聴かせていただき要求実現にむけた取り組みを進めています。誰ひとり取り残さない優しいまち川西をめざして、国政でも市政でも憲法通り・住民が主人公の立場でがんばります。これからもぜひ、皆さんの声をお聴かせください。よろしくお願いいたします。

日本共産党

川西市議会議員団議会報告 2022年春季号

川西市中央町12-1 川西市役所6F
直通TEL:072(740)1268/FAX:072(759)1811
メール:info@jcp-kawanishi.org 共産党川西 検索



